

日本プロテオーム学会（2024年～2025年理事）

2024年 第二回理事会 議事録

開催日時：2024年6月25日(火) 14:00～17:00

会場：リンクステーション青森 第3会場(小会議室1)

出席者(50音順, 敬称略): 足達俊吾、足立淳、阿部雄一、荒川憲昭、今見考志、岩崎未央、植田幸嗣、太田信哉、奥田修二郎、川上隆雄、川島祐介、河野信、木村弥生、小寺義男、小林大樹、榊原陽一、杉山直幸、武森信暁、田中恒平、野口玲、増田豪、松本俊英、松本雅記、三城恵美、渡辺栄一郎

欠席者(50音順, 敬称略):

石濱泰、近藤格

1. 会長挨拶(松本)

- 開会の挨拶及び、年会へのサポートをお願いする旨の挨拶があった。

【報告事項】

1. 会員状況(木村)

(1) 会員数 (2024年6月10日現在)

種別	会員数
個人会員	個人会員 560名 (個人会員:467名 ^{※1} , 個人会員(法人登録):93名) (昨年:521名、一昨年:507名、本年度新規入会者:53名)
名誉会員	4名
学生会員	270名 ^{※2} (183名 ^{※3}) (昨年:380名、一昨年:349名、本年度新規入会者:34名)
法人会員	13社 (昨年 14社、一昨年 13社)
合計	834名+13社 (昨年:901名+14社)

※1 2021-2023年度(過去3年間)会費未払い者543名を除く(昨年:532名)

※2 指導教員より退会のご連絡があった学生136名の退会手続きも行ったため大幅に減少した

※3 メール不達者除外

- 去年から、個人会員が30名ほど増えていること報告があった。
- 卒業している可能性の高い学生会員について、メール不達者の除外を行ったことの報告があった。
- 法人会員については企業の統合により1社減ったことの報告があった。

2. JPrOS2024大会(野口)(資料1)

(1) 参加人数:320名(会員180名、学生42名、非会員98名)(2024年6月22日現在)

(2) 大会収支案:収入12,211,000円 支出11,955,154円 予備費255,846円

(3) 協賛企業数:計30社+2団体(展示21社+2団体、広告9社、ランチョン6社、企業講演1社、スイーツセミナー1社)

- (4) 一般演題:特別講演 4、受賞講演 1、指定演題 51、一般演題 35、ポスター演題 97
- (5) ポスター賞投票用 QR コード



- 上記、大会の報告があった。
- 近藤大会長がコロナ感染のため大会欠席となることの報告があった。
- ポスター賞については、理事全員へ最終日に上位3名投票を行うことについての依頼があった。(表彰は最終日に行われること、賞状は後日送付予定であることの報告があった。)
- また、本大会は学生の方のサポートによる会場運営等がなされており、感謝する旨挨拶があった。

3. JPrOS2025 大会(小原、川島)(資料2-1, 2-2)

- (1) 大会長 小原 収(かずさDNA研究所)
- (2) 開催場所 かずさアカデミアホール
- (3) 開催期間 2025年8月6日(水)~8月8日(金)
- (4) その他、かずさDNA研究所との共催で開催

- 2025年度の小原大会長より大会準備状況の報告があった。
- かずさアカデミアホールは、東京から一時間程度、700人ほど収容可能なメインホールがあること、充実した施設であり、リーズナブルな価格であることも報告があった。また、かずさDNA研究所共催で予算を拠出できる予定であることの報告があった。
- 基調講演についての以下、予定の報告があった。
基調講演1: 柳田敏雄先生を予定
基調講演2: 現在確認中
- 小原大会長より理事会へ以下の質問があった。
参加登録等のシステムは使えるのか?→現在の学会で準備している安価なシステムが使える。
理事会はいつが良いのか?→大会プログラムを元に検討いただき、理事会に相談していただきたい。
市民講座などの開催を行うのか?→引き続き検討事項とする。
- 大会事務局より以下の質問があった。
大会HP作成については、学会側が準備したシステムを使い大会側が作業を行う必要があるのか?予算に余裕があり、例えば60万円ぐらいで外注が可能である場合、そちらを用いても良いのか?もし、学会側が準備したシステムを利用する必要がある場合、現状では方法がわからないためサポートが必要である。→松本会長から以下の回答があった:会員管理システムとの連携、過去の流れ、システムの使用料を考えると、学会としては今のシステムの利用を推奨しているが柔軟な対応も必要な場合があることも理解している。大会HP作成システムについては、基本的にはコンテンツを入れるだけにはなっており比較的容易な運用が可能。学会側からの技術サポートがある予定(担当者には謝金対応)。

4. HUPO、AOHUPO 活動報告(松本、武森)

- (1) HUPO 関連
 - ・HUPO 2024: October 20-24 (Dresden, Germany)
- (2) AOHUPO 関連
 - ・12th AOHUPO 2025: Oct 24-26 (中国広州を予定)
- (3) その他

- 大会中の学会紹介で HUPO の紹介を行い、参加を促す予定であること、HUPO については、ポスタ

一での紹介も行う予定であることの報告があった。

5. JPrOS イニシアチブ(石濱、武森、松本)

(1) Japan Proteome Standard Repository/Database (jPOST)

(2) Journal of Proteome Data and Methods (JPDM)について

・科研費研究成果公開促進費について

- JPDM の予算に関しては、来年度まで予算が続く予定であることの報告があった。
- 7/13~15 に北里大学において投稿のためのセミナーを行う予定であることの報告があった。
- JPOST のブースにポスタの掲示あることの報告があった。

(3) イニシアチブに向けた準備・実施状況

- ・Top-Down Proteomics (Initiative for Gel-based Human Proteoform Atlas) (武森)
- ・FFPE (研究基盤の構築: 病理 FFPE ブロックを用いたがんのプロテオーム解析) (近藤)
- ・難病の血液診断 (血液のプロテオーム解析と遺伝子解析の組み合わせ) (小寺)

- 武森先生より、Top-Down Proteomics について本日(6/25)、3 回目の Top-down proteomics Webinar を開催、80 名程の参加者があったこと、11/16~11/18 京都で現地開催の国際セミナーを開催予定(日本とドイツの研究者を集める)であり、今後学会通信で配信予定であること、啓蒙活動については今年中に概ね完了予定であり、今後具体的な研究を進める予定であることの報告があった。
- 近藤先生より、様々な研究者が臨床検体を使える状況を作りたいと考えており FFPE はより簡易に使える検体として有用である。当初予定としていた栃木がんセンターの配布は無くなったが他の組織との連携を検討中。FFPE サンプルの調整、測定方法については大槻先生と共同で行い方法の確立を終え論文化の予定であることの報告があった。
- 小寺先生より、去年度より進めている難病の血液診断(遺伝子とタンパク質)について、小寺先生、小原先生と協力して行いたい旨報告があった。これまでイニシアティブとして考えていた血清、血漿は一度取り下げとすることの報告があった。
- また、イニシアティブのメリットは？イニシアティブの定義と、審査、義務を明確にして、HP での公開が良いのではないかとの意見があった。それに対し、今後イニシアティブのルール作りなどから開始する必要があるとの意見があり、今後話し合いのもと活性化に繋げられればとの意見も出された。

6. 学会誌発刊(武森、小林、渡辺)

(1) Proteome Letters

(2) JPDM について(上記)

- Proteome Letters 第一巻を作成中(総合論文 3 編、テクニカルレポート1編)であること報告があった。また、学会通信や HP でのわかりやすい宣伝の希望があった。
- JPDM については、今年 15 報の論文が公開されているが、さらなる投稿の依頼があった。また、投稿テンプレートを一新しているので、今後はそちらを使ってほしいとの説明があった。執筆された先生には査読をお願いする旨の依頼があった。

7. 日本プロテオーム学会賞等受賞者(足立)(資料3)

(1) 学会賞

該当なし

(2) 奨励賞

・小形公亮(京都大学大学院薬学研究科)

授賞題目「冷却固相抽出法、ナノスケール同重体固相標識法ならびにモチーフ選択的シグナル増幅法による高感度定量リン酸化プロテオミクスの開発」

- 公平で、一貫した審査のためにも、推薦者が悩まないためにも推薦書について求められていること、基準についての文章の準備をしたいとの報告があった。

8. 日本プロテオーム学会名誉会員(松本)

- 今年度は対象者無しであること、2年に1名程度の推薦を想定している旨説明があった。

9. KHUPO との交換講演(松本)

(1) 2025 年について

(2) 2010 年～2024 年

2010 年 KHUPO 山本 格、木下英司

2010 年 JHUPPO Ho Jeong Kwon (KHUPO 会長)

2011 年 KHUPO 平野 久

2011 年 JHUPPO Je Kyung Seong (Seoul National Univ), Kang-Sik Park (Kung Hee Univ)

2012 年 KHUPO 山田 哲司

2012 年 JHUPPO Kwang Pyo Kim (Konkuk University)

2013 年 KHUPO 朝長 毅

2013 年 JHUPPO KHUPO7 名の HUPPO2013 によるサポートで対応

2014 年 KHUPO 近藤 格 (KHUPO 側からの推薦)

2014 年 JHUPPO Byoung Chul Park (Korea Res. Inst. of Biosci. & Biotechnol.)

2015 年 KHUPO 荒木令江

2015 年 JHUPPO Bonghee Lee (Gachon University)

2016 年 KHUPO 小松節子, 野呂 絵里花

2016 年 JHUPPO Kwang Pyo Kim

2017 年 KHUPO 服部成介, 野村文夫

2017 年 JHUPPO Cheolju Lee

2018 年 KHUPO 石濱泰

2018 年 JHUPPO Jo-Yoel Cho

2019 年 KHUPO 大槻純男、太田信哉

2019 年 JHUPPO Jinhwan Eugene Lee

2020 年 KHUPO 奥田修二郎、紀藤圭治、松本雅記 (中止)

2020 年 JHUPPO 中止

2021年 AOHUPO(KHUPO 主催) 奥田修二郎、紀藤圭治、松本雅記

2021年 JHUPO Kim Youngsoo (Seoul National University College of Medicine)

2022年 KHUPO 足立淳

2022年 JHUPO Jin Han (Inje University)

2023年 KHUPO (HUPO と合同の開催となった)

2023年 JHUPO Jin Young Kim (Republic of Korea)

2024年 JHUPO Kwan-Pyo Kim (Kyung Hee University)

- オーストラリア HUPO については今年度足立先生が発表される予定であり、KHUPO については今後確認が必要である旨説明があった。

10. 各担当理事からの報告

(1) 学術企画活動(岩崎)(資料4)

- 分子生物学会(11/27~11/29)でのワークショップ、メタオミクスとして岩崎先生、渡辺先生がオーガナイズされる形でみにミニシンポジウムとして11/29に開催される旨報告があった。

(2) 教育活動(今見)(資料5)

- 今回はソフトウェアの使い方についての教育訓練の予定12月ぐらいに2日間、理研で行われる想定との報告があった。

(3) 国際活動(石濱)

(4) 広報活動(河野)

- 2025年3/18~3/20 プロテオームスタンダードイニシアティブを京都で開催、メタデータのセッションでJPDMの活動紹介をする予定であること、また同3/21に国際シンポジウムを開催予定であることの報告があった。

(5) 学術活性化(小寺)

- 主に小寺先生、石濱先生、武森先生、植田先生の4名で議論を行なっている。学会の発展、プロテオミクスのプレゼンスを示す。学会参加人数を増やし、将来に向けて発展させられるようにすることを目的とする担当であることの説明及び、以下の報告等があった。

- 1、学生の方に発表をしていただく機会として、「初めての発表」というセッションを企画した(今後の大会でも継続を希望)
- 2、HUPOの理事について、立候補者を応募し締め切った。JPrOSとして、植田先生の推薦をしたい旨提案があり、賛同された。選挙の投票資格はHUPO会員であることから、皆様にHUPO会員になり投票していただくことの依頼があった。AOHUPOからHUPOの理事にダイバース枠として推薦する仕組みがることについても説明があった。
- 3、HPについて、現状十分に活用できていない。SNSでの発信も必要。広報委員の方を中心に必要な項目リストアップを進めて、全員で進めていただきたい旨依頼があった。
- 4、学会のイニシアティブについて、引き続き近藤先生、武森先生にも率先して進めていただきたい旨依頼があった。

11. 2023-2024年度主催・共催・後援・協賛実績(増田)

(1) 主催および共催 日本プロテオーム学会2024年大会 第20回日本臨床プロテオゲノミクス学会合同大会(2024.6.26-6.28、リンクステーションホール 青森(青森市文化会館))

(2) 後援 第73回日本電気泳動学会シンポジウム(2023.12.21、主催:日本電気泳動学会、オンライン)

(3) 後援 HUPO-PSI Kyoto Symposium 2024(2024.3.21、主催:HUPO, Proteomics Standards Initiative、京都大学)

(4) 後援 第21回北里プロテオーム研究会(2024.3.22、主催:北里大学理学部附属疾患プロテオミクス)

センター、北里大学相模原キャンパス)

- (5) 協賛 日本バイオインフォマティクス学会 バイオインフォマティクス技術者認定試験
(第1回 2024.7.13-8.11、第2回 2024.11.9-12.8、主催:日本バイオインフォマティクス学会、オンライン)
- (6) 共同ワークショップ 第24回日本蛋白質科学会年会(2024.6.11-13、主催:日本蛋白質科学会、札幌コンベンションセンター)

- 上記共催会合を行ったことの報告があった。

12. その他(松本)

- (1) 年間スケジュールの作成
- (2) 学会 HP の充実

- それぞれ必要であり、引き続き対応が必要であること、説明があった。

【審議事項】

1. 2023年度収支決算報告および2024年度予算案（荒川）

【2023年度 一般会計収支決算書】

2023年4月1日～2024年3月31日

経常収益（収入）	17,858,172 円
《内訳》	
受取会費	1,456,000 円
（個人会員）	756,000 円
（法人会員）	700,000 円
事業収益（2023年大会）	10,593,500 円
（受取参加料）	1,919,000 円
（受取広告料）	962,500 円
（受取展示料）	5,500,000 円
（受取懇親会費）	837,000 円
（ラUNCHセミナー）	1,375,000 円
受取補助金等	5,518,500 円
（新潟県助成金 2023年大会）	1,186,500 円
（新潟市助成金 2023年大会）	632,000 円
（JPDM国際情報発信強化）	3,700,000 円
受取寄付金	290,000 円
（受取寄付金）	290,000 円
雑収益	158 円
（受取利息）	158 円
特定資産運用益	14 円
（特定資産受取利息）	14 円
経常費用（支出）	16,246,497 円
《内訳》	
事業費	14,953,392 円
大会	11,252,532 円
（会議費）	443,958 円
（懇親会費）	1,786,851 円
（旅費交通費）	1,499,088 円
（通信運搬費）	12,950 円
（消耗品費）	8,951 円
（印刷製本費）	430,144 円
（賃借料）	2,032,560 円
（支払手数料）	97,725 円
（委託費）	4,835,305 円
（雑費）	105,000 円
助成	3,700,860 円
（会議費）	110,785 円
（懇親会費）	0 円
（旅費交通費）	2,720,345 円
（通信運搬費）	97,633 円
（消耗品費）	22,788 円
（印刷製本費）	196,900 円
（賃借料）	33,650 円
（支払手数料）	228,580 円
（委託費）	0 円
（雑費）	290,179 円
管理費	1,293,105 円
（旅費交通費）	62,000 円
（通信運搬費）	610 円
（消耗品費）	39,900 円
（印刷製本費）	281,325 円
（支払手数料）	22,750 円
（委託費）	612,200 円
（雑費）	274,320 円

2023年度 正味財産増減額；	975,453 円
＞税引前一般正味財産増減額(経常収益 - 経常費用)；	1,611,675 円
＞法人税、住民税及び事業税；	636,222 円
＞指定正味財産増減額；	0 円

(2023年大会基金(受取寄付金))

正味財産合計(純資産)	13,397,298 円(2023年度繰越金)
＞2022年度 繰越金；	12,421,845 円
＞2023年度 正味財産増減額；	975,453 円

【貸借対照表】

2024年3月31日現在

(資産の部)

資産合計	14,824,765 円
流動資産	
現金預金	14,824,765 円
学会事務局 普通預金	
ゆうちょ銀行(35543261)	11,618,803 円
	(通常貯金 6,618,803 円)
	(定額貯金 5,000,000 円)
2023年大会事務局 普通預金	
ゆうちょ銀行(01404871)	3,036,609 円
2022年大会事務局 普通預金	
ゆうちょ銀行(55997051)	169,353 円
JPDM国際情報発信強化 普通預金	
三菱UFJ銀行(0195336)	0 円
固定資産	
	0 円

(負債の部)

負債合計	1,427,467 円
未払費用(会計事務所3月分、大会関連費用や入金間違いによる返金未処理分)	580,863 円
前受会費(2024年度法人会費)	150,000 円
前受金(2023年大会協賛金)	0 円
預り金(会計士事務所、および大会の招聘講師料にかかる源泉税)	60,404 円
未払法人税等	636,200 円

資産合計 — 負債合計 = 13,397,298 円 (正味財産合計)

令和5年度（2023年度）会計監査報告書

日本プロテオーム学会の令和5年度(2023年度)の収支決算
について監査を実施した結果、正確であることを認めます。

令和6年 6月21日

会計監査 川上隆雄

令和5年度（2023年度）会計監査報告書

日本プロテオーム学会の令和5年度(2023年度)の収支決算
について監査を実施した結果、正確であることを認めます。

令和6年 6月21日

会計監査 榊原陽一

監査コメント（川上、榊原）

- ・JPDM 国際情報発信強化において、支出合計で不足している860円はどこでどのように補填されているのか。→ 不足分は学会事務局より支払ったとの回答があった。
- ・法人税が例年よりも高いのでは？→ 下記記載の会計担当からの補足として回答があった。
- ・インボイス制度に対する対応について。→ 免税対応の方が学会としては有利であるため非課税となる、デメリットになりうるのは企業の協賛が減る可能性があること。今年度そのようなデメリットはなかったと理解しており、今後も状況を確認しながら非課税で進める予定であるとの報告があった。

会計担当より捕捉

法人税、住民税及び事業税の内訳

・法人税: 418,600 円

・法人事業税: 121,200 円

・法人住民税: 96,400 円

合計: 636,200 円

(過年度比較: 2017 年度大会 (390,111 円)、2019 年度大会 (337,917 円))

< 会計士事務所の説明 >

主な税計算にかかる費用は、大会事業収益のうち法人税の計算対象となる収益の割合を乗じて算出している。

(a) 7,837,500 円 (広告料、展示料、ランチョンセミナーの合計)

(b) 13,028,040 円 (大会事業全体の収益)

(a)/(b) = 約 60.16%

大会事業全体の各費用から、税計算の対象外となる費用（懇親会費と賃借料の一部、講師謝金、大会補助金として受け取った助成金と同額の費用）を差し引いた後、上記割合を乗じ、税計算にかかる費用としている。

2020 年以降、電子媒体の広告（バナーや pdf プログラム集の広告）が収益事業とみなされるようになっており、増額の原因の一つになっている。また、2023 年大会では、収益事業に対応する費用とならない講演料報酬が発生していること、直課できる費用が少ないことが、増額の原因となっている。

< 対応策(検討中) >

杓子定規に 60.16% を乗じるのではなく、企業セミナー(スイーツセミナー、ランチョンセミナー)や企業展示に関わった費用を算出し、事業収益を圧縮することを検討しています。上記費用は約 77 万円となり、9-10 万円減額できそうです。会計事務所と相談を進めており、払い戻しのための校正申請を行う予定です。

【令和6年度（2024年度）予算(案)】

収入	30,514,448 円
《 内訳 》	
2023年度繰越金	13,397,298 円
受取会費	
（個人会員）	700,000 円
（法人会員）	650,000 円
事業収益	
（2024年大会開催収入）	12,067,000 円
受取寄付金	0 円
受取助成金	3,700,000 円
雑収益	
（利息）	150 円

支出	30,514,448 円
《 内訳 》	
事業費	
（2024年大会開催支出）	12,067,000 円
（大会準備金）	500,000 円
管理費	
（会議費）	30,000 円
（通信運搬費）	10,000 円
（消耗品費）	10,000 円
（印刷製本費）	300,000 円
（諸謝金）	10,000 円
（支払手数料）	20,000 円
（委託費）	
— Web運営維持管理費	390,000 円
— 会計事務	480,000 円
（雑費）	
— 学会賞、トラベルアワード関連	300,000 円
科学研究費助成事業費	3,700,000 円
税金	80,000 円
予備費（2024年度繰越金）	12,617,448 円

● 以上報告があり、理事会の中で承認された。

2. JPrOS2025 大会(松本)

- (1)大会長 小原 収(かずさDNA研究所)
- (2)開催場所 かずさアカデミアホール
- (3)開催期間 2025年8月6日(水)～8月8日(金)
- (4)その他、かずさDNA研究所との共催で開催

● 上記報告済み

3. JPrOS2026 大会(松本)

- (1)大会長 大槻 純男(熊本大学)

- 2026年度熊本大学、大槻先生が大会長として、熊本で開催される。市民会館シアーズホームの予定であることが報告された。

「参考資料」 年大会開催地／大会長

年	開催地／大会長
2003	第1回 つくば／中西洋志
2004	第2回 東京／戸田年総
2005	第3回 横浜／平野 久
2006	第4回 東京／西村俊秀
2007	第5回 東京／磯邊俊明
2008	第6回 大阪／高尾敏文
2009	第7回 東京／前田忠計
2010	第8回 千葉／山田哲司
2011	第9回 新潟／山本 格
2012	第10回 東京／高橋信弘
2013	第11回(HUPOと合同) 横浜／平野 久
2014	第12回 つくば／成松 久
2015	第13回 熊本／荒木令江
2016	第14回 東京／服部成介
2017	第15回 大阪／朝長 毅 7/26-28, ホテル阪急エキスポパーク
2018	第16回 大阪／石濱 泰 (第66回質量分析総合討論会(日本質量分析学会の年次大会)と第9回AOHUPOとの合同大会) 2018.5.15-18, ホテル阪急エキスポパーク
2019	第17回 宮崎／榊原陽一、松本雅記、大槻純男 2019.7.24-27
2020	第18回 東京／紀藤圭治、堂前直、川村猛 (中止)
2021	第19回 徳島／小迫英尊
2022	第20回 神奈川／小寺義男
2023	第21回 新潟／松本雅記
2024	第22回 青森／近藤格 (第20回日本臨床プロテオゲノミクス学会との合同大会) 2024.6.26-28, リンクステーションホール青森(青森市文化会館)
2025	第23回 千葉／小原収
2026	第24回 熊本／大槻純男

4. 規約の改定

(1) Presentation award の選考について(増田)

<改定案>

2. 受賞資格

受賞の候補者は次の条件(1)～(4)のすべてを満たす者とする。(1)本学会の会員であること、(2)受賞年のJPrOS大会および、HUPO年会またはAOHUPO年会、にて発表を予定していること、(3)受賞年の4月1日において40歳未満または学位取得後8年以内であること。**また、独立ポジションに就いている方は除く。(赤字が追加)**

● 上記案について理事会において承認された。

(2) 会員の退会および除名(増田)

<改定案>

第6条 (会員の入退会、除名、届出)

第6条 2 (会員の退会)

会員で退会を希望するものは所定の退会届を会長に提出し、退会できる。

個人会員が会費を4年以上滞納した場合、自動退会処理することができる。

第6条 2 (会員の除名)

会員が次のいずれかに該当するときは、理事会の議決を経て、会長がこれを除名することができる。

・本学会の名誉を傷つけ、または本学会の目的に反する行為のあったとき。

・法人会員、~~個人会員~~が会費を滞納し、相当期間を定めた書面による督促の後も支払わないとき。

(赤字が追加、削除部分は取り消し線)

● 上記案について理事会において承認された。

(3) 大会に関する規程(増田)

<改定案>

【大会に関する規程】

6.(大会参加者)

学会個人会員である大会参加者には会員参加費が適用され、同年度の年会費は**その参加費に含まれる免除される**。但し、過去の年会費未納分がある参加者は未納分を遡って支払う必要がある。未納分の年会費を支払わない会員には、会員資格が与えられず、大会参加にあたっては非会員参加費を徴収する。本会会員でない大会参加者には非会員参加費が適用される。

(赤字が追加、削除部分は取り消し線)

● 上記案について理事会において承認された。

(4) 事務局住所(増田)

<改定案>

本会の主たる事務局を~~山形県鶴岡市大宝寺日本国403-1(慶應義塾大学—先端生命科学研究室内)~~神奈川県横浜市金沢区福浦3-9(横浜市立大学 先端医科学研究センター内)に置く。

(赤字が追加、削除部分は取り消し線)

- 上記案について理事会において承認された。

(5) 【会員の特典に関する規定】における、名誉会員の学会賞推薦権について。(川上)(資料6)

現在、名誉会員について名誉会員の推薦権が付与されていないが、俯瞰的な視点での、推薦していただける可能性が高いたなどのメリットがあるため、名誉会員に名誉会員の推薦権を与える案が出された。

- 上記案について理事会において承認された。

5. その他 (松本)

(1) 国際学会関連 award の情報公開

(2) シニア会員制度

(3) 歴代理事リストのホームページ掲載について(通帳の変更などの手続きにも必要であるため)

- 上記引き続き議論を進める必要があることが共有された。

(4) 会員管理システムについての変更提案(高見)

- 会員管理システムが古く更新が必要であることの説明があった。(少なくともシステムを更新しセキュリティー上問題ないシステムにする必要があること、必要のないメニューの整理、現状マニュアルでの対応が必要な部分の自動化等が必要)。今後の予定としては、上記の問題について大会中に利用者との過去利用、現在利用者についてヒアリング等行い更新案をまとめ、今年中に基本となるシステムを構築し、来年の年會に間に合うように運用を開始したい旨説明があった。
- システム更新にかかる費用は、学会側のお金で払うという説明があった。